



女優・モデル・ダンサー 江原 千花さん

15歳のときに、2011年度準ミス日本に選ばれた江原さん。舞台女優やモデルとして活躍し、近年はラジオのパーソナリティや神楽舞に取り組むなど、活動の幅を広げています。下関を拠点に活動する理由や想いに迫ります。



写真提供：一般社団法人ミス日本協会
▲準ミス日本へ選出いただいたとき「まさか」と思いました。(江原さん／1列目左から2番目)

生きる喜びを 全身で表現したい

芝居が人生の学びに

江原さんは幼少期に、リズムに合わせて足を動かすミュージカルのステップタッチと出会います。「その時のことをいまだに覚えているくらい楽しくて、そこから『ミュージカルをしたい』と思うようになりました」

音楽劇や舞台にも出るようになった江原さんは、その世界にどんだんのめり込んでいきます。「お芝居を演じること、人と何かをすることの楽しさを感じました。お芝居からいろいろな発見もできて、人生の学びになりました」

東京より下関で

そして江原さんに人生の転機が訪れます。「ミス日本コンテスト」に15歳で出場。見た目の容姿だけではなく、幅広い人間性も問われるこのコンテストで、準ミス日本に選ばれました。

これを機に、江原さんは東京と下関を行き来するように東京で開催された音楽劇の主演に抜てきされ、東京での活動を始めました。

「東京に行ったり来たりする中で、改めて下関の良さを感じました。都会が良くて田舎がダメだという価値観もありますが、私は『どこにいるか』よりも『何をするか、何ができるか』を大事にしています。表現には人とのつながりが大切で、そこが基盤となって伝えられることが広がっていくと考えています。東京に住んでしまうと、私にとって表現の材料が減って、人に届けられる部分がすごく少なくなると思っています。そのためにも、家族や近所の方との温かいつながりがある



▲チカのノート
いろいろな場面で気づいたことなどをつづっている宝物です。

雨の日の楽しみ方



Location 豊田湖畔公園

▶江原千花主催公演「父と暮せば」

「大好きな下関で、演劇の力、舞台の魅力をしっかり感じていただきたい」という想いで作りしました。人とつながり、温かさなどを感じることができた貴重な経験でした。



Photo by Masayo Ono



Photo by Masayo Ono

◀下関リーディングの会の公演

メンバーは、年齢も経験も幅広く個性豊かな顔ぶれです。幼稚園や学校など市内のいろいろな所で公演をしています。毎回思いもよらないことが起き、良い経験になっています。

▶ラジオ放送の様子

天気、季節、社会情勢を考えて、リスナーさんが今聞きたいものを共有することで、地域を元気にしていきたいと思っています。毎週とても楽しく、新鮮な発見に満ちています。



下関で志を遂げる

下関にいたいんです」と、江原さんは下関愛を熱く語ってくれました。

最近、さらに活躍の幅を広げています。「ラジオ放送を通じて下関を元気にする」という目的に共感して始めたカモンFMのパートナリティに加え、地元のケーブルテレビでは、番組にレギュラー出演。自らキャスターをこなすなどの体験をして、下関のアウトドアの魅力を伝えていきます。演出家の和田喜夫さんと「下関リーディングの会」を立ち上げ、市民活動にも取り組んでいる江原さん。「リーディ

ングは台本を持ったまま行う演劇で、初めての方でも演劇の楽しさを感じることが出来ます。リーディングを通して地域の文化・芸術の振興、地域の活性化を目指しています」「志を立てて、もって万事の源となす」が座右の銘という江原さんの志は「生きる喜びを全身で表現すること。」「主催公演を、今後も地元で定期開催することが目標です。同じ脚本でも下関で作ると下関のカラーが出ます。それを地元の方に見ていただきたいと思っています。」

下関愛あふれる江原さん、これからも下関を拠点にした活躍がますます期待されます。

Editor's note 編集後記

■点訳ボランティアの皆さんが、熱心に学び合う姿を見たので、私も自己研さんします！色彩検定という試験に申し込みました。西村

■18歳から大人と書きながら、30歳を過ぎても自分を大人だと感じません。幼い頃に見た近所のお兄さんは立派な大人に見えたのですが。宮村

■江原さんの下関愛、素晴らしいです！撮影のとき、カメラが引き寄せられるような不思議な感覚がありました。貴重な体験でした！ 廣野